

国産SAFの製造等の取組について

2025.01.31

コスモ石油株式会社

次世代プロジェクト推進部長

高田 岳志

1. コスモエネルギーグループについて（事業概況）

	石油事業 (精製・販売)	石油化学事業	石油開発事業	再生可能 エネルギー事業	合計
売上高 (2023年度実績)	2兆4,456億円	3,618億円	1,278億円	143億円	2兆7,296億円
経常利益 (2023年度実績)	907億円／913億円 (在庫影響除き)	△78億円	683億円	28億円	1,616億円／1,622億円 (在庫影響除き)
従業員数 (2024年3月末時点)	4,072名	1,142名	298名	232名	6,530名
主な事業会社、 関連会社 (2024年3月末時点)	コスモ石油 ★ コスモ石油ブリカンツ コスモ石油マーケティング コスモ石油販売 コスモエネルギーソリューションズ ジクシス キグナス石油 ほか	丸善石油化学 コスモ松山石油 CMアロマ HD Hyundai Cosmo Petrochemical Co., Ltd ほか	コスモエネルギー開発 アブダビ石油 カタール石油開発 合同石油開発 Cosmo E&P Albahriya Limited ほか	コスモエコパワー CSDソーラー ほか	
	・原油処理能力*(2024年3月31日時点) 40万バレル/日 (国内シェア12.4%) ・国内販売量 (2023年度実績) 内需燃料油 22,280千kl ・国内SS数 (2024年9月30日時点) 2,579ヶ所 ・コスモカード 会員数 (同上) 362万枚 ・カーライフスクエアアプリ (同上) 819万件 ・コスモMyカーリース (同上) 累計契約台数 124,961台	・オレフィン製品 生産能力 (2024年11月12日時点) エチレン 129万t/年 ・アロマ製品 生産能力 (同上) ベンゼン 48.5万t/年 ミックスキシレン 61.8万t/年	・パートナーシップ 約50年にわたる産油国との 強固な信頼関係 ・オペレーターシップ (自社操業) 中東地域において日系企業の オペレーター会社としては最大規模 ・原油生産量 (2023年度実績) 約3.7万バレル/日 (原油処理能力比 約9%) ・原油埋蔵量 (確認・推定) (2023年12月31日時点) 155.0百万バレル (約19年分の供給量相当)	・風力発電設備容量 (2023年12月31日時点) 310MW (国内第3位/国内シェア6%) ・太陽光発電能力 (2024年3月31日時点) 24MW	

*事業提携に基づく出光興産グループからの3.7万バレル/日の製品・半製品の供給を含む

1. コスモエネルギーグループについて (Vision 2030 *2023年3月公表)

2

Vision 2030

未来を変えるエネルギー、社会を支えるエネルギー、新たな価値を創造する。

当社(コスモ石油)の事業領域



グリーン電力 サプライチェーン強化

発電～需給調整～売電
サプライチェーン高付加価値化



次世代 エネルギー拡大

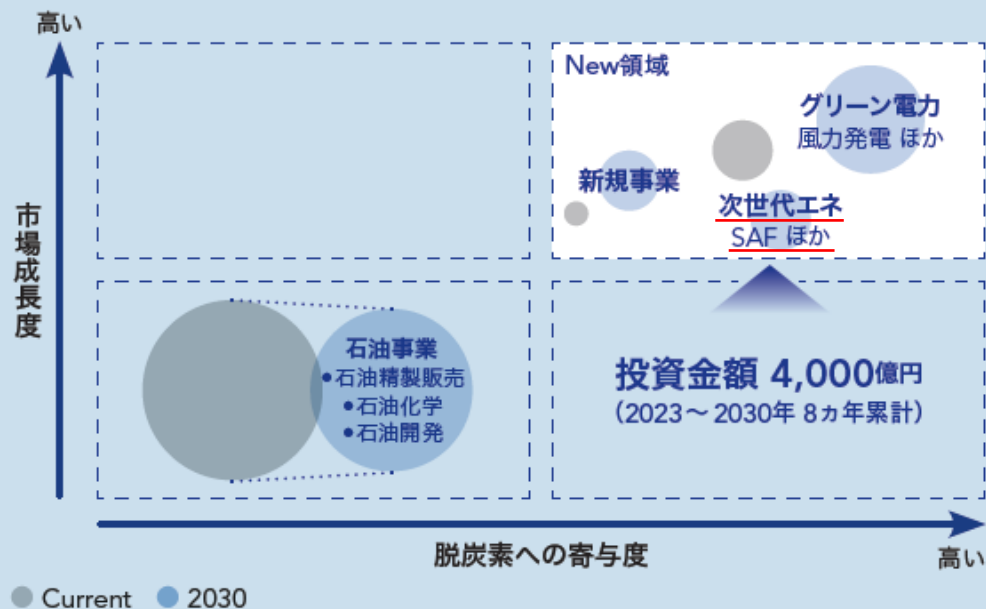
SAF供給、水素および
他エネルギーの取り組み



石油事業の競争力強化・ 低炭素化

デジタルプラント化など
による競争力強化、
CCS/CCUSによる低炭素化

事業ポートフォリオ



収益性

経常利益 2,000～2,500億円
当期純利益 900～1,200億円

投資

New領域 4,000億円
2023～2030年 8ヵ年累計
New領域を含む 戦略投資6,000億円

資本効率性

ROE 12%以上
ROIC 8%以上

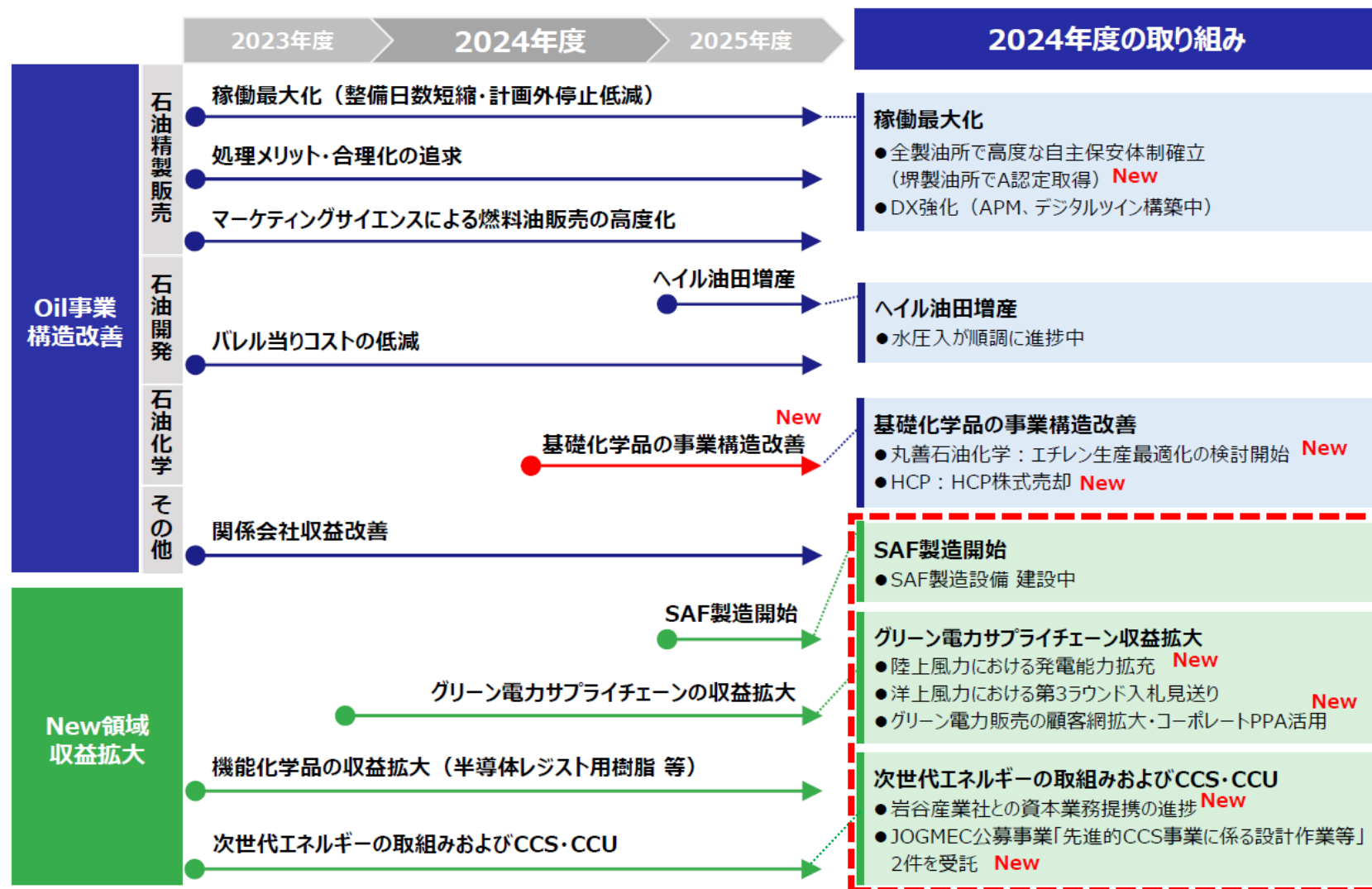
気候変動対策

CO₂排出量削減 △30%
2013年度比△200万t

1. コスモエネルギーグループについて（第7次連結中計の進捗）

3

Vision 2030を見据え、「Oil & New ~Next Stage~」をスローガンとする第7次中計(23~25年度)ではOilを中心とする収益力確保に加え、**成長に向けたNew領域の拡充に注力**



1. コスモエネルギーグループについて（主なNew領域事業）

4

1. グリーン電力サプライチェーン収益基盤確立

発電→需給調整・蓄電→販売のサプライチェーンを一つに繋げグリーン電力の価値最大化

<直近動向>

- ・陸上風力では当社グループで過去最大の設備容量となる野牛(青森県、129MW)のFIPを落札
- ・パナソニックグループ、Amazonに続き、東京地下鉄社とコーポレートPPAを締結
- ・コスモでんきビジネスグリーンの導入先が3,400施設に拡大

Vision 2030 グリーン電力サプライチェーン



2. 次世代エネルギーの取組みおよびCCS・CCU

◆SAF供給

- ・廃食用油原料のSAF製造事業
- ・バイオエタノール原料のSAF製造事業
- ・SAF輸入検討



◆CCSの取組み

- ・JOGMECの令和6年度「先進的CCS事業に係る設計作業等」において2件の公募で受託決定
- ・コスモ石油千葉製油所はマレー半島沖北部、堺製油所はマレー半島沖南部のCCS事業に参画
- ・千葉・堺の両製油所から排出されるCO2を分離・回収し、CO2排出量削減を目指す
- ・2030年度までの事業開始を見据え、事業化に必要なバリューチェーンの構築、関連技術検討

◆岩谷産業社との資本業務提携

2024年4月、脱炭素社会実現に向けた取組み等の検討実施に向け資本業務提携契約締結

- ・水素ステーション事業
- ・水素サプライチェーンの構築：千葉製油所アセットを活用した水素事業の事業性検討開始

当社CCS取組み



3. その他

・アブダビ首長国との強固な関係性を活かした取組み

2022年3月、コスモエネルギー開発とADNOCはCCS/CCUS等脱炭素分野での協業検討覚書締結

・リチウム資源開発への新規参入を目指した取組み

2023年10月、コスモエネルギー開発は米国のリチウム資源開発事業への新規参入を目指し、米国法人「Cosmo E&P USA Inc.」設立

水素ステーション事業

岩谷コスモ水素ステーション合同会社の水素ステーション拡大実施



SAFの取組について

2. 当社SAF取組みと展望

6

当社は**2030年に年間30万KL**のSAF供給を目標として取組んでいます

① 廃食用油原料のSAF事業^(HEFA)【3万KL/年】

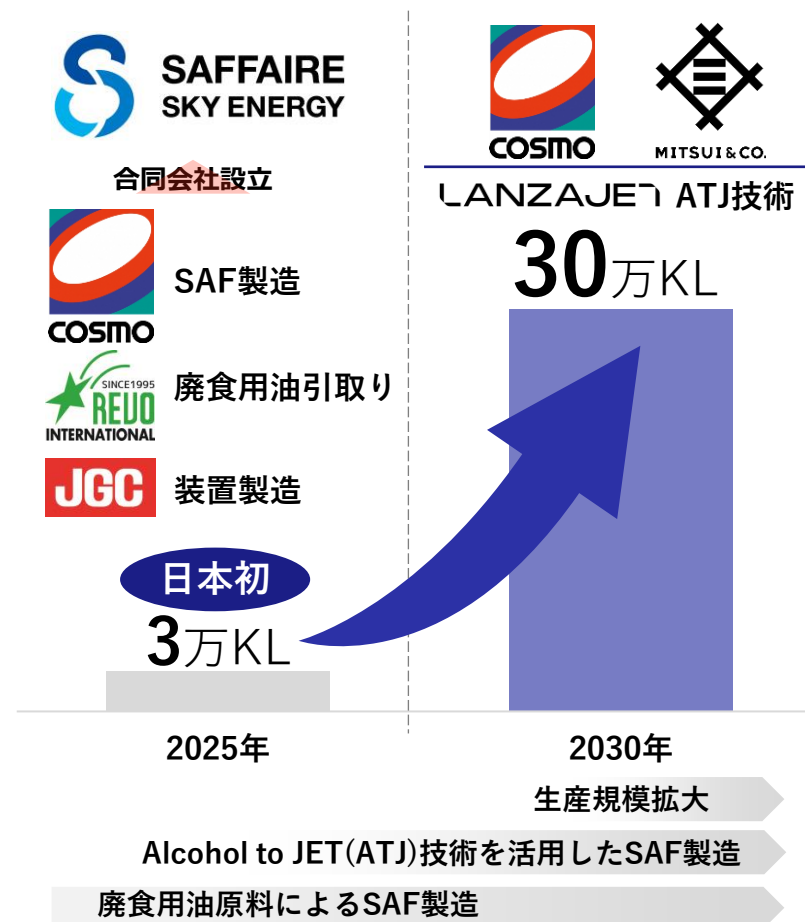
- ・ 2022年11月サファイアスカイエナジー設立
- ・ 2024年度内 装置完工 / 運転開始予定 *量産化 国内第1号案件

② バイオエタノール原料のSAF事業^(ATJ)【22万KL/年】

- ・ 2022年7月三井物産様と共同でFS検討開始
- ・ 2027年以降にSAF製造装置完工 / 運転開始を目指す

③ 更なるSAF供給に向けた輸入検討【+α】

- ・ 2023年12月、タイ Bangchak社とSAF輸入のフレーム合意書締結、条件面協議中



3. 廃食用油原料のSAF事業（サプライチェーン概要）

7

以下2点において、本事業は**国内初のSAF製造事業**となります
①国内初の**SAF量産化**（年間約3万KL） ②国内初の**CEF認証***取得

*CEF認証：CORSA Eligible Fuel（CORSA適格燃料）の略で、ICAO（国際民間航空機関）が定めるGHG削減基準等を満たした航空燃料



国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
「国産廃食用油を原料とするSAF製造サプライチェーンモデルの構築」助成事業

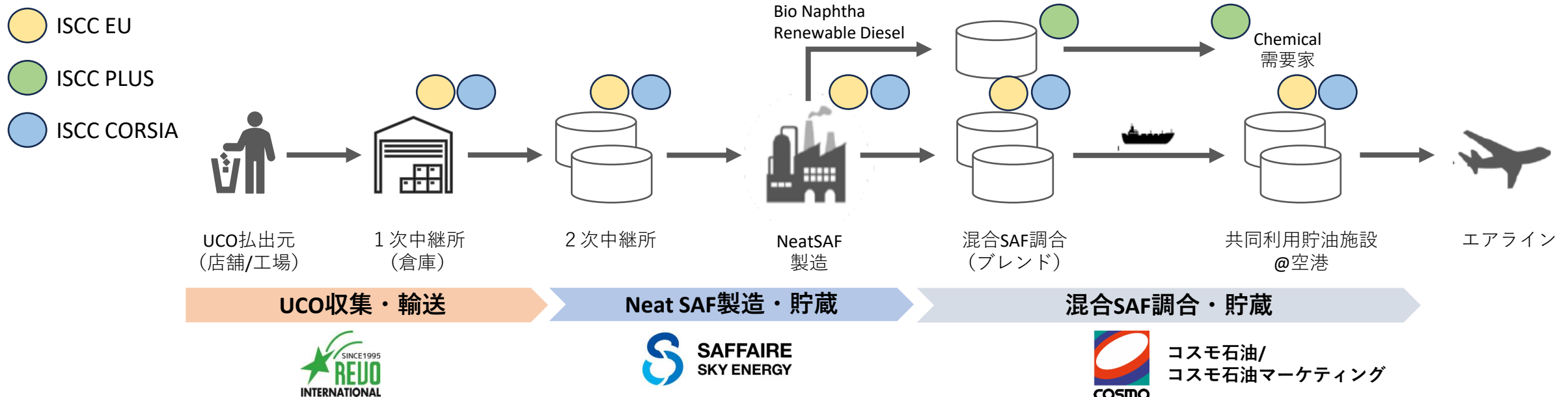
3. 廃食用油原料のSAF事業（国際認証取得）

8

- ✓ 2024年11月、各サプライチェーンにてISCC CORSIA/EU認証取得
- ✓ 原料調達→製造→需要家まで**全サプライチェーンでの取得は国内初**

<取得した認証概要>

ISCC認証取得会社/認証サイト	認証	認証製品	認証スコープ
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY/堺工場	ISCC EU、ISCC CORSIA	HEFA(SPK)、Bionaphtha	プロセッシングユニット
コスモ石油株式会社/本社	ISCC EU、ISCC CORSIA、ISCC PLUS	—	トレーダー／ストレージ
コスモ石油マーケティング株式会社/東京オフィス	ISCC EU、ISCC CORSIA	—	トレーダー



3. 廃食用油原料のSAF事業（足元の進捗）

9

- ✓ 2023年5月よりSAF装置建設を開始しました
- ✓ 2024年10月より廃食用油の搬入を開始しております
- ✓ 2024年12月に装置完工し、まもなく試運転開始予定です

2023年5月 当社堺製油所にて起工式開催



中谷経産副大臣(当時)、永藤堺市長、弓取NEDO理事らご来賓

2024年10月 廃食用油搬入開始



ウィング車によるIBCコンテナ搬入

2024年12月 SAF装置完工



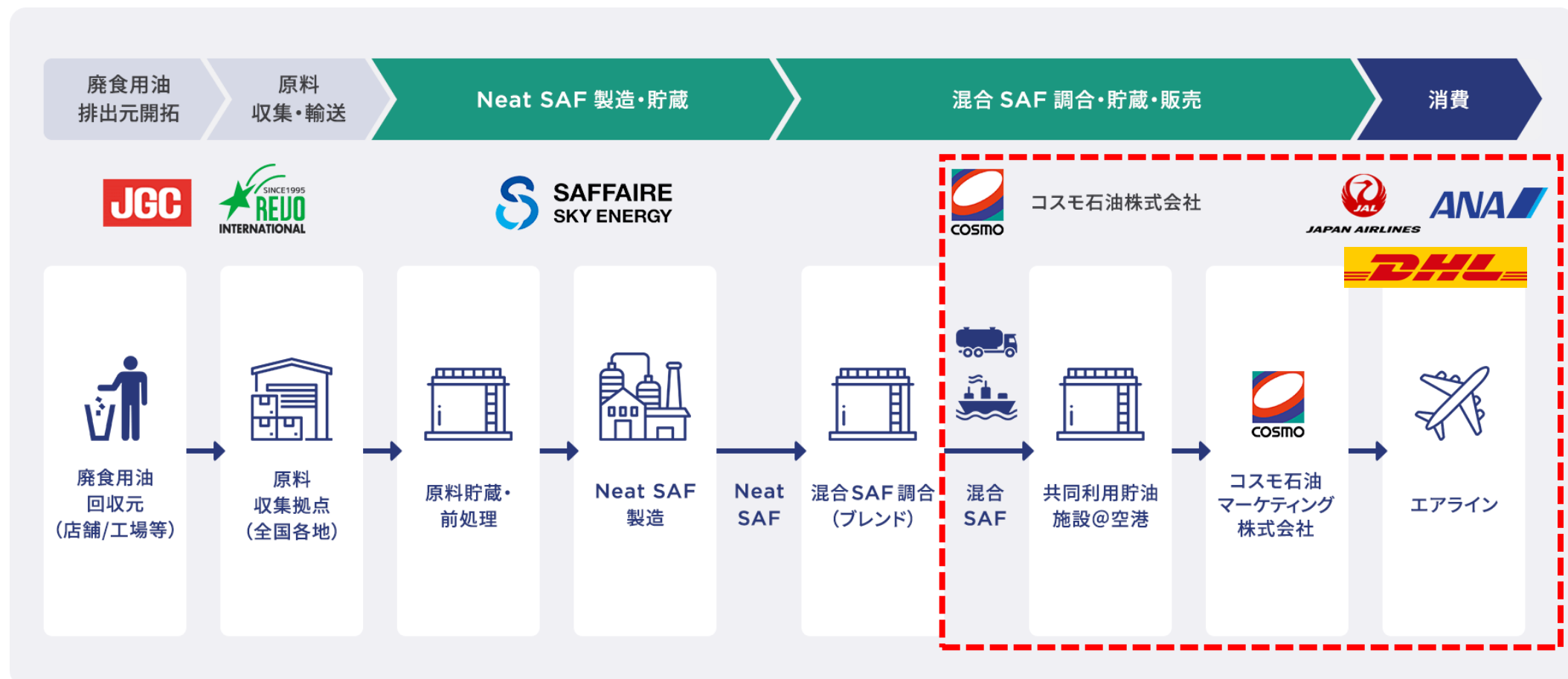
ニートSAF製造装置（左：加熱炉、中：蒸留塔）

今春本格生産開始予定（本年3月6日竣工式開催予定）

3. 廃食用油原料のSAF事業（エアライン様へのSAF販売）

10

- ✓ 2025年度より、本事業のSAFを国内エアライン（日本航空様、全日本空輸様）および海外エアライン（DHL Express様）へ供給します
- ✓ これにより、**日本初となる国産SAFサプライチェーンの構築が実現します**



3. 廃食用油原料のSAF事業（原料回収アプローチ）

11

事業最大の課題である廃食用油収集につき、**事業系・家庭系排出の双方**からアプローチ

事業系

- ・ **SAFFAIRE SKY ENERGY** への原料供給を大手排出元企業様との基本合意書締結を展開中です
→締結先企業：FOOD & LIFE COMPANIES様(スシロー等)/東京メトロ様(めとろ庵)/トリドール様(丸亀製麺等) 他多数

家庭系

- ・ **2024年3月より東京都主催イベント「東京 油で空飛ぶ大作戦～Tokyo Fry to Fly Project～」**を展開中です
→同年6月より都内の当社系列サービスステーション(SS)にて**市民回収実証開始**
- ・ **2024年11月に大阪府堺市との廃食用油資源化に向けた連携協定を締結しました**
→堺市内の当社系列サービスステーション(SS)にて**市民回収を計画**中

都内SSにおける廃食用油の市民回収実証（2024年6月～）



(←)セルフ&カーアステーション光が丘(練馬区)
(↑)廃食用油回収ボックス設置イメージ

堺市連携協定式での記念撮影（2024年11月）



具体取組として堺市内SSでの市民回収を計画！

(↑)左から左 インターナショナル越川代表取締役CEO、コスモ石油春井取締役常務執行役員(堺製油所長)、永藤堺市長、日揮ホールディングス秋鹿専務執行役員

日の丸SAFが持続可能な事業となるよう、原料調達ネットワークの強化やコスト競争力の強化といった重要課題には引き続き官民連携で取り組みながら、着実にプロジェクトを遂行いたします

SAF注目度の高まりから今般多くのメディアに取り上げられています



地下鉄デジタルサイネージ



TV取材風景

みんなで楽しく
脱炭素に取り組む



ガソリンスタンドでの廃食用油回収 (24年6月～)



TV取材風景

年間 約3万キロリットルの
SAFが製造される



国産SAF普及に向けた東京都連携イベント (24年3月)



大阪府堺市SAF連携協定イベント (24年11月)



TVCM

2025 (39歳)

SAF「持続可能な航空燃料」
生産開始予定



TVCM

ココロも満タんに
COSMO



Forbes JAPAN AWARD受賞 (24年8月)

